

---

#### 4. 研究会「観光戦略研究会」

### 観光戦略研究会の研究経緯

和歌山大学経済学部

教授 小田 章

和歌山県では、観光産業は重要であり、和歌山市では「花と緑の海都 WAKAYAMA」をスローガンにイベントを開催している。又、紀南地域では「ほんまもん体験」と名を打った体験型観光を売り出している。体験型観光は近年注目を浴びており、各地でも農林漁業体験、生活文化体験、地域産業体験など様々な体験が用意されている。紀南地域は市町村各地が連携し、管轄地域のみならず、他市町村の体験型観光も売り出すことにより、紀南地域の観光産業全体を盛り上げていこうとする戦略を取っている。対して、紀北地域となると、ロイヤルパインズホテルやポルトヨーロッパは祝日、クリスマス、年末年始にかけて賑わうものの、他地域になると宿泊数が特に減少している。この要因が奈辺にあるかを分析し、有効な施策を立案することが必要となる。

本研究会は、こうした視点から和歌山県の観光及び観光産業の発展を目指して、平成 12 年に立ち上げた。2 年目の本年度は昨年度に引き続き、和歌山市内の観光問題の検討を行なうことにした。和歌の浦観光協会、和歌の浦観光旅館組合をゲストに迎え、和歌浦観光業界の現状の確認を現地で行なった。また、和歌の浦の現状や和歌山県内の観光事情を伺い、本研究会の研究員と意見交換を行った。

意見交換会では、USJ による宿泊数の増加の期待に反して、宿泊数が減少したことが発表された。その点を踏まえ、顧客情報（特性や満足度、観光経路）の分析や情報の蓄積していく必要性が確認された。その情報の分析や蓄積を行なう役割を和歌山大学、また地域経済研究機構の観光戦略研究会が担う必要があるのではないだろうか。

こうした基本的方針に基づいて、本研究会は来年度にわたり和歌の浦地域と和歌山県全体の観光産業の活性化の可能性を探っていくこととする。